

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K04492

研究課題名(和文) 問題解決的な学習と体験的な学習を導入した道徳授業の指導法と評価法に関する研究

研究課題名(英文) The Research for Moral lesson's method and evaluation introduced problem-solving learning and experiential learning

研究代表者

柳沼 良太 (Yaginuma, Ryota)

岐阜大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：30329049

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：道徳科の指導と評価を充実させるために、問題解決的な学習と体験的な学習を導入した道徳授業の指導法と評価法に関する研究を行った。「主体的・対話的で深い学び」に対応した道徳授業とするために、道徳授業の教材開発や発問を創意工夫した。小学校と中学校において実際に開発した指導案に基づいた問題解決型の道徳授業を実践し、その効果を具体的に検証した。また、各種の役割演技やスキル・トレーニングやシミュレーションなどを用いた体験型の道徳授業も開発・実践して多様化を図った。こうした問題解決型の道徳授業の学習過程を分析して、学びの様子を評価する方法を開発し、パフォーマンス評価やポートフォリオ評価として実践した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「特別の教科 道徳」は子どもたちが「考え議論する道徳」へと質的転換を図ることが求められていたが、その指導法や評価法は十分に開発されていなかった。そこで、小・中学校の教師と協働して、「主体的・対話的で深い学び」に対応した問題解決的な学習や体験的な学習を導入した道徳授業の指導法と評価法に関する研究を行った。日米の道徳授業を比較考察することで世界基準の指導法を取り入れ、考え議論する中で共に納得し合い最善解を創り上げる指導法を構築することができた。また、道徳授業の学習過程を分析して、子どもの学びの様子や道徳性の成長などを多面的・総合的に把握するパフォーマンス評価やポートフォリオ評価を開発し実践した。

研究成果の概要(英文)：I examine the effectiveness of active learning style of moral lesson introduced problem-solving learning and experiential learning. I tried to create new moral lesson to nurture the competence to think proactively and discuss collaboratively, and apply the knowledge and skill. Problem-solving learning of moral lesson has the approach that children face moral problems, and judge proactively how to solve them. For example, children think about whether they should forgive with caring mind or criticize selfishness violating a rule. Next, experiential learning in moral lesson relies on role playing in order to solve the moral problem, and undertaking skill training to improve one's human relations. Children think and judge how to behave through playing the moral role. The active learning of moral lesson also will need to be evaluated to judge the effectiveness of this learning style. This evaluation helps to approve and encourage the moral growth of children, and improve the moral lesson.

研究分野：道徳教育

キーワード：道徳教育 道徳授業 問題解決的な学習 体験的な学習 人格教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「特別の教科 道徳」が小学校・中学校の教育課程に新たに位置付けられ、従来の登場人物の心情理解に偏った「読む道徳」から、アクティブ・ラーニングや「主体的・対話的で深い学び」に対応した「考え議論する道徳」へと質的転換を図ることが求められてきた。そのために、道徳科においても問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に導入することが要望された。

しかし、その指導法や評価法は十分に確立されておらず、学校現場でもその指導法や評価法のは是非をめぐって諸論争があり、教育実践を通じた道徳教育の理論構築が求められていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、問題解決的な学習と体験的な学習を導入した道徳科授業の指導法と評価法を開発・実践することで、新設される「特別の教科 道徳」の改善・充実に資することであった。

また、子どもの道徳性の認知的側面、情意的側面、行動的側面を総合的に育成する問題解決的な学習や体験的な学習の指導法を開発・実践すると共に、それに対応するパフォーマンス評価法やポートフォリオ評価法を開発・実践して、道徳授業の実効性を高めることと設定した。

3. 研究の方法

上述した研究の目的を達成するために、国内では小学校・中学校の現場教師と連携・協力して、校種別に問題解決的な学習や体験的な学習に対応する道徳科の学習指導過程を考案し、その効果を実証的に検証していった。国外では、我が国の道徳教育を欧米の人格教育・価値教育・道徳教育などと比較検討することで類似点や相違点を見極め、その指導法と評価法を改良することに役立てた。

1年目は、国内外の基本的な文献（特に道徳授業に関する副読本とその教師用指導書、参考図書、論文等）を収集して比較検討してまとめた。小中学校の道徳授業が「特別の教科」となることで、それに関連した文献も追加で収集した。また、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れた道徳授業の具体的な指導内容、指導法、評価法などの理論と実際を構成した。それによって国内外の道徳授業の比較考察をすると共に、多様で効果的な道徳授業のあり方を実際の授業実践と共に紹介した。

外国ではアメリカの人格教育（キャラクターエデュケーション）とフランスの道徳・公共の授業に関する資料を収集し、我が国の道徳授業と比較検討した。

2年目以降は、小学校と中学校で問題解決的な学習と体験的な学習を導入した問題解決型の道徳授業の指導法と評価法を開発・実践した。研究協力校として、筑波大学附属小学校、武蔵野市立第八小学校、名古屋市立大府北中学校、川口市立榛松中学校などの各校において学校現場の教師と協力・連携して、多くの道徳授業を開発・実践した。

同時に、国外研究としては、アメリカではニューヨーク州の人格教育（キャラクター・エデュケーション）と比較し、子どもの生活経験との関連した道徳教育のあり方を検討した。特に、役割演技（ロールプレイ）や討論（ディベート）を道徳授業に取り入れる方法とその効果を検証した。

3年目は、日本の中学校において問題解決的な学習や体験的な学習を活用した道徳授業の実際を研究した。特別の教科となる道徳科において有意義な指導方法を開発し、指導案に反映させ、実際に道徳授業を繰り返し行った。静岡県島田市の六合地区の小・中学校では、問題解決的な学習を中心とした道徳授業を系統的・計画的に実施した。また、愛知県大府市立大府北中学校、愛知県東浦町立東浦中学校、岡崎市立竜美丘小学校、あま市立七宝小学校などには複数回にわたり指導訪問を行い、道徳授業の改善・充実に向けて共同研究した。

4年目は、小学校と中学校での道徳授業を中心にして問題解決的な学習や体験的な学習を用いた道徳授業の指導法と評価法を開発・実践した。

特に研究協力校の筑波大学附属小学校および岐阜大学教育学部附属小・中学校、岐阜県内外の先進的な道徳授業の実践を指導訪問した上で、問題解決的な道徳学習の学習指導過程について詳しく探究した。この研究では、価値判断力・意思決定力を育成する社会科と道徳科のコラボレーションを図ったもので、平成30年8月に研究発表会を行った。中学校では、東京都をはじめ、岐阜県や愛知県などと協働して問題解決的な道徳授業を開発・実践し、その成果を刊行した。

5年目は、本研究の完成年度となるため、これまで行ってきた小学校と中学校における問題解決的な学習と体験的な学習を導入した道徳授業の評価について総合的に検討した。

問題解決的な学習と体験的な学習を取り入れた道徳授業の実際としては、小学校では郡上市立八幡小学校、中学校では長森南中学校、義務教育学校では岐阜大学教育学部附属小・中学校、神戸市立港島義務教育学校などで問題解決型の研究授業を行った。岐阜大学附属中学校の矢島徳宗教諭と協力して社会科と関連した今日的課題に対応した道徳授業も行った。長良東小学校の後藤洋基教諭と協力して、道徳科と体育科を関連づけた総合的プログラムを開発した。さらに、筑波大学附属小学校道徳教育研究大会では問題解決的な学習と体験的な学習を用いた道徳授業の研究に関する助言・指導と講演を令和元年8月と12月、令和2年2月に行った。

4. 研究成果

1年目(平成27年度)の研究成果としては、日本道德教育方法学会と日本デュイイ学会のシンポジウムで発表すると共に、複数の教育関連論文で紹介し、単著『問題解決的な学習で創る道德授業 超入門』を刊行した。こうした平成27年度の教育実践研究は、主に小・中学校を対象とした。研究協力校である岐阜県多治見市立陶都中学校(研究協力者・丹羽紀一教諭)、岐阜県岐阜市立長良中学校(研究協力者・加納一輝教諭)、熊本県熊本市立西山中学校(研究協力者・竹上明日香教諭)、東京学芸大学附属竹早小学校(研究協力者・竹井秀文教諭)、愛知教育大学附属名古屋小学校(研究協力者・水野晋吾教諭)、武蔵野市立第八小学校(研究協力者・嶺井勇哉教諭)において問題解決的な学習と体験的な学習を取り入れた道德授業を開発・実践した。

また、問題解決型の道德授業に関する実践研究は、各学校の中間発表会(愛知教育大学附属小学校は平成27年6月、武蔵野市立第八小学校は平成28年2月)などで研究協議された。また、動作化、役割演技、スキル学習、アサーションやコミュニケーションに関わる所作などを取り入れた学習指導過程を創意工夫した。

2年目(平成28年度)の研究成果としては、以下のものを刊行した。小学校版と中学校版の編著『子どもが考え、議論する問題解決型の道德授業 事例集』、共著『アクティブ・ラーニングに対応した道德授業』(授業実践のDVD付)、小学校版と中学校版の『問題解決的な学習で創る道德授業パーフェクトガイド』、DVD編著『子どもが考え、議論する問題解決的な学習で創る道德授業 小学校』。

次に、我が国の道德科の指導法と評価を検討する論考として、日本道德教育学会の紀要『道德と教育』334号に『「考え、議論する道德」の可能性と課題 アクティブ・ラーニングの視点から』を発表し、日本道德教育方法学会の紀要に「道德科の充実に向けた評価を考える」を発表した。

また、ハーバード大学で平成28年12月に行われた Association for Moral Education の研究大会で「Active Learning of Moral Lesson in Japan」を研究発表した。さらに、アメリカの人格教育に関する指導法と評価を検討して、論文「アメリカ人格教育の評価指針 アメリカ教育省の見地から」『岐阜大学教育学部研究報告(教育実践研究・教師教育研究)』を発表した。

3年目(平成29年度)の研究成果としては、日本道德教育学会の春季大会(7月)で課題研究「問題解決的な学習を生かした道德授業」で発表した。同じ日本道德教育学会の秋季大会(11月)では、個人研究発表と共同研究発表を二つ行い、「調停力を育成する道德授業」や「持続可能な社会に向けた環境倫理の道德授業」などを発表した。また、関東教育学会(11月)ではシンポジウムに登壇し、「道德教科化と教育学研究」について検討した。その他、「考え議論する道德シンポジウム」(8月)を企画・運営し、問題解決的な学習を生かした道德授業の普及徹底に努めた。

以上の学会発表などは、岐阜大学教育学部紀要に論文で掲載した。著作も単著『道德の理論と指導法』1冊、共著『「考え、議論する道德」を実現する!』、編著『定番教材でできる問題解決的な道德授業 小学校』、共著『「調停する力」を引き出す道德教育の展開』、共著『小学校道德科「問題解決的な学習」をつくるキー発問50』の4冊を刊行した。

4年目(平成30年度)の研究実績としては、問題解決的な学習の発問とその授業展開を検討して『「問題解決的な学習」をつくるキー発問50』を刊行した。また、筑波大学附属小学校及び岐阜大学附属小中学校の先生方と協力して、編著『現代的な課題に取り組む道德授業』の研究成果を刊行した。この他、道德科の評価に関する研究として編著で『道德の評価』を刊行した。こうした道德教育の理論的・歴史的な考察として、平成31年3月に『プラグマティズム、公共、道德』も刊行した。

また、こうした研究成果を学会で発表したものとしては、以下のものがある。日本道德教育学会では「人生の目的に対応した道德授業の指導と評価」を発表した。日本道德教育方法学会の課題研究では、「考え議論する道德をどのように行うか」を発表した。国際学会としては Association for Moral Education において「Moral Teaching Method Corresponding to Life's Purpose」と題して発表した。

最終年度(平成31年度・令和元年度)の研究発表としては、8月に鳥取道德教育研究会で「人物教材を用いた問題解決型の道德授業の指導と評価」について講演を行った。日本道德教育学会では、「主体的・対話的で深い学び」と対応した問題解決的な学習や体験的な学習を用いた道德授業に関する研究協議を続け、学会誌『道德と教育』において論文「道德科で主体的・対話的で深い学びをどう実現するか」を掲載した。

また、道德科の多面的な評価方法として編著『道德の評価』で刊行した。また、道德科の指導と評価の特質については、日本教科教育学会編『教科とその本質』で解説した。その際、各教科・領域と道德科の類似点と相違点についても言及した。

以上のような研究成果を得ることができたため、予定通り5年間をかけて本研究の目的であった「問題解決的な学習と体験的な学習を導入した道德授業の指導法と評価法を開発・実践すること」を達成、その結果として新設された道德科の改善・充実にも大いに寄与できたと言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 337号
2. 論文標題 道徳科で主体的・対話的で深い学びをどう実現するか～問題解決的な学習を通した深い学びを中心に～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 道徳と教育（日本道徳教育学会）	6. 最初と最後の頁 120-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 45号
2. 論文標題 道徳教科化の展開とその課題 教育学研究の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関東教育学会	6. 最初と最後の頁 52-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 66巻2号
2. 論文標題 道徳教科化の課題と教育学研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告（人文科学）	6. 最初と最後の頁 180-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太・小笠原淳・矢島徳宗	4. 巻 20巻1号
2. 論文標題 調停力を育成する道徳授業の理論と実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告（教育実践・教師教育）	6. 最初と最後の頁 190-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 57号
2. 論文標題 デューイの教育理論と道徳教育	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本デューイ学会紀要	6. 最初と最後の頁 103 - 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 65巻2号
2. 論文標題 プラグマティズムと公共哲学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告人文科学	6. 最初と最後の頁 169-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 19巻1号
2. 論文標題 アメリカ人格教育の評価指針 アメリカ教育省の見地から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告 (教育実践研究・教師教育研究)	6. 最初と最後の頁 137-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 334号
2. 論文標題 「考え、議論する道徳」の可能性と課題 アクティブ・ラーニングの視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 道徳と教育 (日本道徳教育学会紀要)	6. 最初と最後の頁 101 - 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 22号
2. 論文標題 道徳科の充実に向けた評価を考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本道徳教育方法学会紀要『道徳教育方法研究』	6. 最初と最後の頁 87 - 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 333号
2. 論文標題 「特別の教科 道徳」への期待と課題	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 道徳と教育	6. 最初と最後の頁 165-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 55巻9号
2. 論文標題 真の問題解決学習で創る道徳授業	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 道徳教育	6. 最初と最後の頁 36 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 1366
2. 論文標題 これからの道徳科の授業を考える	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 教育研究 (初等教育研究会)	6. 最初と最後の頁 18 - 21頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 平成26年度4号
2. 論文標題 家庭科教育と道徳教育	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 家庭科	6. 最初と最後の頁 3 - 6頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 21号
2. 論文標題 「特別の教科」としての道徳を考える	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 道徳教育方法研究	6. 最初と最後の頁 87 - 88頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 734号
2. 論文標題 新学習指導要領にそった道徳教育	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 6 - 8頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳沼良太	4. 巻 765号
2. 論文標題 人間性豊かな心を養う学校づくり	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 小学校時報	6. 最初と最後の頁 4 - 8頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 柳沼良太
2. 発表標題 人生の目的に対応した道徳授業の指導と評価 問題解決的な学習を通した深い学びを中心に
3. 学会等名 日本道徳教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳沼良太
2. 発表標題 考え議論する道徳をどのように行うか
3. 学会等名 日本道徳教育方法学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryota Yaginuma
2. 発表標題 Moral Teaching Method Corresponding to Life's Purpose
3. 学会等名 Association for Moral Education, Barcelona, Spain（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳沼良太
2. 発表標題 道徳教科化の課題と教育学研究
3. 学会等名 関東教育学会年次大会シンポジウム（早稲田大学）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柳沼良太・小笠原淳・矢島徳宗
2. 発表標題 調停力を育成する道徳授業の理論と実践
3. 学会等名 日本道徳教育学会秋季大会・個人研究発表（神戸親和女子大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柳沼良太
2. 発表標題 問題解決的な学習を生かした道徳授業
3. 学会等名 日本道徳教育学会春季大会・課題研究（千葉大学）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryota Yaginuma
2. 発表標題 Active Learning of Moral Lesson in Japan
3. 学会等名 Association for Moral Education（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柳沼良太
2. 発表標題 道徳科の充実に向けた指導と評価の一体化
3. 学会等名 日本道徳教育方法学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柳沼良太
2. 発表標題 「特別の教科」としての道徳を考える
3. 学会等名 日本道徳教育方法学会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 丹羽紀一・柳沼良太
2. 発表標題 特別な支援を必要とする生徒が主体的に学ぶ道徳授業
3. 学会等名 日本道徳教育学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 柳沼良太
2. 発表標題 デューイの教育理論と道徳教育
3. 学会等名 日本デューイ学会（招待講演）
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 柳沼良太	4. 発行年 2019年
2. 出版社 あいり出版	5. 総ページ数 210
3. 書名 プラグマティズム、公共、道徳 教育の新たな可能性を求めて	

1. 著者名 柳沼良太・鈴木明雄・江川登	4. 発行年 2018年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 175
3. 書名 中学校 生徒が本気になる問題解決的な道徳授業 「考え、議論する道徳」の実践事例集	

1. 著者名 石田恒好・押谷由夫・柳沼良太・長谷徹・谷合明雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 図書出版社	5. 総ページ数 210
3. 書名 道徳の評価	

1. 著者名 柳沼良太・梅澤真一・山田誠	4. 発行年 2018年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 205
3. 書名 「現代的な課題」に取り組む道徳授業 価値判断力・意思決定力を育成する社会科とのコラボレーション	

1. 著者名 柳沼良太・竹井秀文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 139
3. 書名 「問題解決的な学習」をつくるキー発問50	

1. 著者名 柳沼良太	4. 発行年 2017年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 206ページ
3. 書名 道徳の理論と指導法	

1. 著者名 柳沼良太・山田誠・星直樹（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 174
3. 書名 定番教材でできる問題解決的な道徳授業	

1. 著者名 合田哲雄・柳沼良太他14名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 191ページ
3. 書名 「考え、議論する道徳」を実現する！	

1. 著者名 柳沼良太・竹井秀文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 141ページ
3. 書名 「問題解決的な学習」をつくるキー発問50	

1. 著者名 須本良夫・柳沼良太 他8名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 デザインエッグ	5. 総ページ数 139
3. 書名 「調停する力」を引き出す道徳教育の展開	

1. 著者名 柳沼良太	4. 発行年 2016年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 175
3. 書名 子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業 事例集 小学校	

1. 著者名 柳沼良太	4. 発行年 2016年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 146
3. 書名 子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業 事例集 中学校	

1. 著者名 柳沼良太・竹井秀文	4. 発行年 2016年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 126
3. 書名 アクティブ・ラーニングに対応した道徳授業	

1. 著者名 柳沼良太・山田誠	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 134
3. 書名 小学校 問題解決的な学習で創る道徳授業パーフェクトガイド	

1. 著者名 柳沼良太・丹羽紀一・加納一輝	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 132
3. 書名 中学校 問題解決的な学習で創る道徳授業パーフェクトガイド	

1. 著者名 加賀裕郎・高頭直樹・新茂之（編著）・柳沼良太他	4. 発行年 2016年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 210
3. 書名 プラグマティズムを学ぶ人のために	

1. 著者名 柴原弘志（編著）・柳沼良太他	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 205
3. 書名 中学校 新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編	

1. 著者名 柳沼良太	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 135
3. 書名 問題解決的な学習で創る道徳授業 超入門	

1. 著者名 貝塚茂樹・関根明伸（編著）、柳沼良太他（執筆）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 229
3. 書名 道徳教育を学ぶための重要項目 100	

1. 著者名 篠原清昭（編著）、柳沼良太他（執筆）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 214
3. 書名 新・教職リニューアル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----